

「同大に最初に勝った試合と、今日は決して忘れない」(坂田監督)

大体大 **33** — **34** 同大

関西大学ラグビーAリーグの第5節が4日、宝ヶ池球技場で行われ、勝てば5位以上が確定し、3年連続26回目の全日本大学選手権出場が決まる大体大(2勝2敗)だったが、同大(1勝3敗)に33 - 34で惜敗した。大体大の第6節は、10日午後2時から鶴見緑地球技場で首位・天理大(5勝)と対戦する。



ライバル・同大に1点差で敗れ、がっくりと肩を落とす大体大フIFティーン【右上】悔し涙が止まらなかった蔵守主将(中央、左は拝原コーチ)

第5節: 同 大34—33大体大

わずかに1点差に泣いた。1点差で迎えた4分間のロスタイム。大体大は同大にプレッシャーを掛け続けて再逆転を狙ったが、無常にもノーサイドの笛が宝ヶ池球技場に響き渡った。同大応援団の歓声がこだまし、大体大フIFティーンは崩れ落ちた。

「笛が鳴った瞬間、頭が真っ白になった」とPR・蔵守吉彦主将(体育4年)。「勝つことが考えていなかった。(全日本大学)選手権を決めることが出来ず、その思いがグッとこみ上げてきた」。

大体大はプロップ・デユオの蔵守が先制トライを決め、伊尾木洋斗(同2年)が後半立て続けに2トライを奪って引き離したが、ライバル・同大に19・15・14・19の33・34で敗れた。

「人生で1点差のゲームは何度も無い」とラストイヤーの坂田好弘監督。「36年間ずっと同大と戦い続けてきて、初めて勝った時の試合と今日の試合は決して忘れない」。

坂田監督の母校・同大に勝って全国大会の切符を手中に収める。大体大ヘラクレス軍団の思いはそれだけだった。坂田監督の母校・洛北高の後輩にあたるPR・伊尾木はいつも以上に勝ちたい気持ちで、FWの指導を受けてきた指揮官最後の同大戦に挑んだが、叶わなかった。

「思い切ってFWで勝負しようと思った」と伊尾木。「(坂田)監督と同じ高校で、同大に勝って終わらせたかった」。

前節の近大戦ではノートライに終わった大体大は、開始からFWの力を見せ付けた。前半4分、敵陣5mのセットプレーからモールで押し込んで蔵守主将がトライを決めると、26分には敵陣10mのラックから起点を作った最後はH.O・王鏡聞(同3年)が続いた。

しかし、大体大は攻守の大事な局面でミスが出てこの試合9ペナルティを犯し、そこを同大に付け込まれて引き離すことが出来なかった。「原則を取られて流れを変えられた」(坂田監督)。

大体大は後半18分に同大に逆転トライを許したが、伊尾木が21分、25分とラックから持ち出してトライを叩き込んで、一時は11点差までリードしたがセーフティリードとはならなかった。36分に相手BKに抜かれてトライを許して1点差、コンバージョンゴールを決められ逆転された。

5トライ中4トライをFW陣で奪って、らしさを示した大体大。坂田監督は「80分間緊張してやれていた。ちよと運があるかないかの違いだった」。

1点差負けに号泣した蔵守主将だったが、全国への切符をあきらめてはいなかった。この負けはチームにプラスになると思っており、全員が死に物狂いで、覚悟を持ってやっていきたい。

OUHSスポーツニュース

関西学生女子サッカー秋季リーグの最終戦が3日、姫獨大サッカー場で行われ、大体大は姫獨大を4 - 0で降し、7戦全勝で優勝を決めた。大体大は関西1位で12月26日に開幕する全日本大学女子サッカー選手権(三木防災ほか)に出場する。

今月19日に開幕する全日本大学バスケットボール選手権(女子)の組合せが3日発表され、大体大(関西2位)は1回戦(20日午後2時40分、川崎市とどろきアリーナ)で東京医療保健大(関東2部1位)と対戦する。



▲▲ 同大に惜敗した選手たちを見守る坂田監督



この試合セットライを挙げた伊尾木(中央)



前半4分、モールで押し込み蔵守主将(中央下)が先制トライを決める